

横浜市食育推進計画素案への市民意見募集 結果概要

● 市民意見募集概要

【意見募集期間】

平成22年4月12日(月)～5月14日(金)

【計画素案(5,000部)配布状況】

- ・市役所市民情報センター、区役所広報相談係、一部のPRボックスにて配布
- ・食育推進計画検討委員会委員の所属する団体等に配布

● 結果概要

1 件数

263件(114名・1団体)

2 意見分類

意見分類	件数
計画素案内容・構成について	38
食育推進施策への提案・意見	140
感想・食育についての考え	85
計	263

3 年代・性別

年代	男性	女性	不明等	計
10代	0	0		0
20代	5	4	1	10
30代	9	7		16
40代	3	9		12
50代	6	7		13
60代	8	8		16
70代	3	6		9
80代以上	1	2		3
不明等	3	7	26	36
計	38	50	27	115

4 行政区

区名	人数	区名	人数
鶴見	4	港北	5
神奈川	1	緑	4
西	3	青葉	4
中	4	都筑	4
南	2	戸塚	12
港南	7	栄	6
保土ヶ谷	1	泉	4
旭	2	瀬谷	7
磯子	1	不明等	34
金沢	10	計	115

5 方法

方法	人数
はがき・郵便	70
FAX	8
Eメール	37
計	115

横浜市食育推進計画素案へのご意見及び対応案

※1 ■ 計画素案内容・構成についてのご意見

■ 食育推進施策への提案・ご意見

■ 感想・食育についてのお考え

※2 計画への反映

1 計画に反映するもの 2 今後の検討の参考にするもの 3 既に取り組んでいるもの 4 既に計画に盛り込んでいるもの 5 計画に反映できないもの 6 その他

	ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
1	素案を作成するまでのプロセスをもう少し紹介してあると良いと思う。・どのようなメンバーで検討してきたのか・どのような議論があったのかなどが分かるとより理解が深まると思う。	1	横浜市食育推進計画検討委員会には、様々な立場の方々に委員としてご参加いただき、横浜らしさを取り入れた取組みについて意見交換を行いました。同委員会の名簿や開催状況は、計画に掲載します。なお、詳しい検討委員会における議論内容については、ウェブページの議事録を載せていますのでご参照ください。
2	7・8ページにアンケート結果について触れているが、アンケート結果がどのように素案に活かされているかが見えにくい。	1	アンケート結果の概要と計画の内容の関係性を分かりやすく、整理したものを新たに記載します。
3	市民に対して積極的に食育を行っていくのはとても大切なことで、このような計画が具体的に実行されようとしているのは良いことだと思う。この計画素案を見ると、小さい子を持つ親や小中高生へ、いろいろな活動を通して食育を行っていく案が出ていて、その点は素晴らしいし、是非、義務化して全員に確実に行ってほしい。	6	義務化は困難ですが、市民の皆様にご理解いただき、各取組を実現していけるよう、計画の推進に取り組んでまいります。
4	計画の目的に「横浜市全体で取り組むべきことを具体化し計画に盛り込んでいきます」とあるが、この素案を読んだ限りでは新たな取組を推進していくために、誰が何を行っていくのか見えてこない。	4	食育の担い手は、行政のみならず事業者や市民の皆様でもありと考えております。本計画の施策としては、原則として市が実施することを掲載しています。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
5 「横浜食育プロモーション」活動を行うためのオール横浜なプロモーション組織と横浜市食育推進会議（横浜市の推進体制）の関連性が明確に示されていない。4つの行動指針を「よこはま指針」として整理したのは良いが、目標の達成に向けてプロモーションをどう進めていくのか、一番大事なことに触れていないと思う。	2	食育プロモーションの実施に向けた、より具体的な組織体制や進め方について、今後検討してまいります。
6 「財政状況が厳しい中、とりあえず計画は作りました」と受け止めてしまった。	6	これまで、本市でも様々な計画のもとで食育関連の取組を実施してきました。これらを体系的に整理し、連携して効果的に実施することが、計画の主な役割の一つであると認識しております。
7 生活習慣病患者が多く、又医者にかかれば薬を多用し、本人の自助努力がされていない。昔の人は医食同源、薬食同源と言われた。成人病は食育の誤った解釈ではないでしょうか？（発展途上国には、餓死は多くあっても生活習慣病患者は見当たらない）	6	国の食育推進基本計画に、「脂質の過剰摂取や野菜の摂取不足、朝食の欠食に代表されるような栄養の偏りや食習慣の乱れが子どもも含めて見受けられる。これらに起因して、肥満や生活習慣病の増加が見られ、過度の痩身等の問題も指摘されるようになってきている。」とあり、こうした課題が食育を推進する一因となっています。
8 素案は60頁弱とボリュームもあるので、要約版を1～2頁あればよかったと思う。	1	計画策定の際には、内容をより分かりやすく市民の皆様にお伝えできるよう、図表やイラストを交えた概要版の作成を予定しております。
9 P2L8「食育の大切さに対する社会全体の意識（食育意識の啓蒙）が高まっています。」とあるが、そうとは決して思えない。それは、まだ一部の人であり、早急に高めていくことが最大の課題だと思えます。	4	国の意識調査の結果では、食育への関心が高まっている結果が出ています。今後、より多くの市民の皆様の関心を高めていくことが、食育の推進に結び付くと認識しています。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
10 P44～59のアンケート集計結果について、大体予想されているような結果が出ており、グラフの読みとりを標記しているだけであり、分析を深めていく必要がある。	6	計画素案に掲載しております、アンケート調査の結果は一部抜粋版となっております。調査結果の詳細は、後日ウェブページにおいて公開いたします。また、アンケート結果は、計画における現状把握や数値目標設定に活かしております。
11 郵送などより、個別対面での調査等で、個々の問題点なども明らかになるのではないのでしょうか。(今後、イベント会場での実施なども検討要)	5	調査経費の面や、より多くの方々のご意見を計画に反映させるため、郵送によるアンケート調査を実施しました。
12 計画は簡けつ、明りょうに。	2	食育は幅広い概念であり、健康的な食生活、食の安全、地産地消、食文化など多岐にわたる要素を含んでいます。そのため、計画が相応の分量になるといった部分もありますが、市民の皆様によりわかりやすい計画にしたいと考えています。なお、計画完成時には、図表やイラストを交えた計画の概要版を作成する予定です。
13 市民意見募集といっても「食育推進計画素案」というものが、何を狙っているのか？私も横浜市民ですがまったく伝わってない事がまず問題かと。	4	食育は幅広い概念であり、健康的な食生活、食の安全、地産地消、食文化など多岐にわたる要素を含んでいます。その食育を推進することにより、「食」を通して、市民の皆様が健康と豊かな人間性を育み、高めていくことを計画の目的としています。
14 この類いの啓蒙活動は、自己啓発に良く似たところがあるように思われる。意識ある方だけが結果的に見聞きすることにならないように注意して頂くことが重要なのではないか。	2	従来手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に関心を高めていただけるよう、取組を進めてまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
15 議事録を全て読んだ訳ではないが、食育は外部からではなく家庭内部から発現して初めて成果が出る気がする。学生のみを対象にした活動と並行して家族参加型の啓蒙活動、ないし親の世代を積極的にかつ重点的に意識を変える活動が必要だと感じる。自宅で口にするものが許されるものが口にしてよいものの代表であり最も強力な食育の指導者だと考える。	2	個別施策の中には、ご家庭での取組を推進していくものも含まれております。従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様へ食育への関心を高めていただけるよう、取組を進めてまいります。
16 食とは生きることにつながる。食べることで成長するし、他の生命を頂いているので。食育＝いかに生きるか というキーワードの一項目として扱うと良いのではないだろうか。	4	食が生きるうえで欠かせないことは、御指摘のとおりです。計画では、「食」を通して、市民の皆様が健康と豊かな人間性を育み、高めていくことを目的としています。
17 食生活の大切さを教育することの重要性は、現在、多くの人に共有されていると思う。そういった意味で、この推進キャンペーンも大変よいタイミングだと思う。横浜市は港もあり、農地もあり、地域的で持続的な運動にできれば良いと思う。	4	海に面しており、なおかつ農地もある横浜市の特性を活かして、食育の推進に取り組んでまいります。
18 食育というもののイメージがつかないが、それをやることで何につながるのか、どんなメリットがあるのかを明確に示して、先を見据えたものにして欲しいと思う。	1	食育を推進することによるメリットについて、計画概要版においてもより分かりやすく示し、今後、多くの市民の皆様にご理解いただけるよう取り組んでまいります。
19 長期的な運動を望む。	4	将来にわたり、食育が推進されることを目標として計画を策定しております。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
20 よこはま指針は4本立ての4種類の感がある。1つの的に向かってやってもらいたい。	4	食育を推進することにより、「食」を通して、市民の皆様が健康と豊かな人間性を育み、高めていくことを計画の目的としています。目的を達成するために、市民の皆様の行動の指針として「よこはま指針」を作成しました。
21 給食については、市内産を積極的に使用するため、数値目標を設定してはどうだろうか。	4	小学校給食への市内産農畜水産物の使用を推進しておりますが、現状では、供給量を確保することが困難であるため、市・県内産農畜水産物として数値目標を設定しております。
22 この計画はいつ頃に計画全体に完成いたしますか？おたずねいたします。又、発行する際、この冊子是有償販売の予定はありますか？インターネットへの接続が整えていないため、閲覧できないのです。それで、もし出来上がったら再び市役所へ来庁し、市政情報センターにもらいに行こうと思っていますが、有償販売の可能性があるので事前に企画課のほうに問い合わせました。	6	計画は平成22年9月に完成予定です。有償販売の予定はありません。区役所や市役所の市民情報センターで配布予定(無償)です。
23 9ページ「食事バランスガイド」最後にP14参照に追加	1	記載いたします。
24 9ページ4つの視点「その2」「食材の本来の姿や調理過程に関わる機会の不足」に変更	5	4つの視点については、なるべく短い表現を使うようにしているため、現在の表現を採用させていただいております。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
25 11・12ページ「横浜の食育の4つの課題」 課題1から4は、上から下に	5	4つの指針の実践を「山」に例えており、一つ一つを乗り越えて目的を達成する構成にしているため、4つの課題は下から上に上る構成にしております。
26 17ページ「現状」最後に添付資料として、横浜市内の主な施設名（食品を生産している障害者施設等）を区ごとに一覧にする。	2	計画においては、食品を生産・提供する障害者施設一覧等を掲載する予定はありませんが、今後、ウェブページ等に情報を集約するなどの取組を進めてまいります。
27 21または26ページ どこかに「魚本来の姿を知る」「魚や野菜の名前を知る」を追加（アンケート項目にはないが、切り身やパックが多くなっているので目に触れる機会が少なくなってきたと思われる）	1	食材の本来の姿について、より具体的な説明として「魚本来の姿を知る」「魚や野菜の名前を知る」という内容の表現を付け加えます。
28 大変立派な計画書が作られ、市が総合的に推進することは重要で、個々の機関が役割を発揮して取り組むことと合わせて、各区ごとに、さらに各自治会にまでエリアを下に展開させる。	4	市民の皆様、民間事業者の皆様にご協力いただきながら、食育の推進に取り組んでまいります。
29 栄養士の資格だけ持っている主婦であり、「食」に関する事には興味がある。今回、友人から良かったらこの「素案」を渡されたが、これだけのものを読むのは面倒だと思ってしまい、しばらく放置してしまった。読んでみてもすぐに読むのが嫌になった。もっと簡潔にわかりやすくしていただきたいと思う。景品が当たるとしても多くの意見は出ないと思う。	1	計画策定の際には、内容をより分かりやすく市民の皆様にお伝えできるよう、図表やイラスト等を交えた計画概要版の作成を予定しております。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
30 食育の意味が分かりづらい。食糧か食事か食物か何か分からない。食育はもっと分かりやすい言葉で、例えば食物の育成と考えても意味が分からず、育とは何か、何を育てるのかわからない、しつけ教育とか、食物の研究か食事の開発とかもっと分かりやすい言葉にしたらよいと思う。	4	本計画は、「食育基本法」に基づき策定しており、「食育」という言葉を使用しています。「食育」の意味については、食育を構成する要素について表にするなど、わかりやすくするための工夫をしております。
31 パンフレットをもっと分かりやすくページを少なくし、図をもっと入れて、一般の人が関心をもつ作りにしたらどうでしょうか	1	計画策定の際には、計画の内容をより分かりやすく市民の皆様にお伝えできるよう、図表やイラスト等を交えた計画概要版の作成を予定しております。
32 P21 特に子ども達への食育は重要で、たくさんある食べ物の中から体によいものをバランスよく選択すること。包丁で食材を切り、炎の加減を目で見て確認し、食材を焼く、煮るときの香りと音を聞き分け、食材本来のおいしさを引き出すこと。さらに加熱時間や調味(味付け)によっておいしさが変わること。このような調理技術を身につけることにより、子どもたちの好奇心や創造力、五感を磨き、心身の健全な育成につなげる。	6	計画への記載について、検討いたします。
33 P23 地産地消のより効果的な広報として、エコ・クッキング講座の推進を追加してほしい。エコ・クッキング講座では、買い物の中で地産地消についての講義が行われている。	6	計画への記載について、検討いたします。
34 P33 「エコ・クッキング教室」は正しくは「エコ・クッキング講座」である。エコ・クッキングの基本スタイルは環境のことを考えて、買い物・料理・片付けをすること「食べ物にありがとうの気持ち」+「環境にやさしい生活」の提案を追加してほしい。	6	計画への記載について、検討いたします。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
35 「食育推進のための担い手の育成」についての記載がない。横浜市民の食育への関心を高めるためには、指導者(小中学校教諭、栄養士)や担い手(食生活等改善推進員など)の育成が必要不可欠である。	1	P38 食育プロモーションの中で「食育推進の担い手」となる市民団体等の活動状況を記載しておりますので、あわせて、担い手の育成及び活動を推進する旨を明記いたします。
36 地産地消を進めるだけでなく、又減農薬をうたうのでもなく、やはり完全無農薬栽培の野菜を、ヨコハマブランドとして確立してほしい。東京都認定の農産物はオーガニック品だと聞きます。	5	環境保全型農業の推進に努めていますが、現時点では、完全無農薬栽培の野菜を進めていく状況にはなっていません。
37 市民意見募集の範囲が狭く、短期間すぎる。	6	市役所市民情報センター、18区役所広報相談係、一部のPRボックス(市内公共施設、病院、店舗等)で計画素案を配布し、広く市民の皆様からの意見募集を実施しました。また、意見募集期間については、横浜市パブリックコメント実施要綱運用指針第7条に「定められた実施機関は、市民が計画等若しくは規制の案又は答申、報告書等の案について意見等を提出するために必要な時間等を勘案して前条第2号の意見等の提出期間を定めなければならない。」とされる中で、「標準的な意見等の提出期間は、おおむね1か月とする。」と定められている期間を準用させていただいております。
38 様々な取組が必要とされる食育の推進を本気で取り組むのだろうか。役所のポーズにはならないようにしてほしい。	6	計画の目標達成を目指し、食育の推進に取り組めます。
39 食に関心を持つことは、子ども(本当は親から教える)の頃より身につけておかなければならない問題である。バランスのとれた食生活は母乳の頃から必要である。子どもの頃からしっかりバランスの良い食生活を学ばなければならない。それには、学校でもう少し食事に関することを学ばせていただきたい。大人になってからでは間に合わない。	3	現在も各市立学校において、学校ごとの食教育推進計画を策定するなど、食育に関する取組を実践しております。今後はさらに、それらの取組を推進してまいります。また、従来より区役所等で実施してきた乳幼児の食に関する啓発の取組をさらに充実させ、身近な場所で多くの方々が食育を意識できるような仕組みづくりを進めてまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
40 子どもに食について教育することも必要であるが、親にも家庭での食事の大切さを認識してもらうことも大事ではないかと思う。	2	乳幼児の食育など、計画の中には、ご家庭での取組を推進するものも含んでおります。あわせて、子どもへの食育については、学校での食育に関する取組が家庭においても可能な限り実践されるような手法について検討してまいります。
41 2年程前から食育に取り組んでいる。掲示物や配布物に工夫を行い、日常指導にも力を入れた。その中でも、最も効果的だと感じたのが、動画であり、クレイアニメ式の物語仕立てにした動画を生徒たちに見せた所、なんと高校生にも大人気だった。今年度から、新しいテレビも導入された事も幸いし、素敵な映像を楽しみながら、見ることで食育に取り組めると思う。	2	イラストや画像をできる限り活用した食育の推進に取り組んでいきたいと考えています。動画の活用については、その作成方法・活用方法を今後検討してまいりたいと思います。
42 横浜市全体で、同じ映像を見ることができたらとても楽しいと思う。プロの力を使ったらより効果的で美しい映像が楽しめると思う。美術の街横浜であり、映像や芸術関係を専門に扱う団体が数多くある。その方々と協力し合ったらより優れた食育教材が安価に仕上がると考える。	2	美術・芸術の専門団体の方々のご協力をいただき、その力を最大限発揮していただけるような環境・仕組みづくりについて、今後検討してまいります。
43 横浜市マイスターの中華・洋食の料理人を高齢者食事サービスに従事する人達に呼びかけ、年寄りにやさしいおいしい料理を教えてもらう。	2	市内の料理人の皆様のご協力をいただき、その力を最大限発揮していただけるような環境・仕組みづくりについて、今後検討してまいります。
44 横浜中心部にはま菜ちゃんレストラン(食堂)があると良い。	3	現在、市内産野菜を使用する飲食店には、「よこはま地産地消サポート店」という名称をつけて展開させていただいております。詳細については、環境創造局のウェブページをご覧ください。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
45 官庁・企業(民間)の社員食堂も積極的に地場産野菜を取り入れPRする。	2	官庁・企業(民間)の社員食堂でも地場産の野菜を取り入れることができるよう、検討してまいります。
46 横浜市食育協力店のステッカーを張る。	2	食育協力店等のステッカー作成は現在検討しておりませんが、既存の「よこはま地産地消サポート店」「よこはま健康応援団(健康に配慮したメニューを提供する飲食店)」等の広報の方法などについて今後、検討してまいります。
47 「はま菜ちゃん」という言葉は知らなかった。地産地消、無農薬の食品の購入に気を使っているが、はま菜ちゃんについてはPRが不足していると思う。ネーミングもスマートではない。	2	「はま菜ちゃん」を含め、食育の推進に関連する施策等事項については、食育推進計画策定を契機にさらなるアピールを進めてまいります。
48 保育園児に食が細いからと「プロテイン」を飲ませている母親もある。蛋白源は摂っているはずなので、野菜摂取の必要性をもっともっとPRするべきである。	3	現在、横浜市では市内保育所ごとに食育計画を策定し(20年度で99%の保育所で策定)、保育所や保育所に通う子どもの家庭における食育を推進しています。野菜摂取については、「健康横浜21」計画に基づき、PRに取り組んでいます。
49 お箸を使えない子が多くなっている。丸いもの、小さいものを取ったり、魚をさばいて口に入れたりすることが苦手だと食べることに意欲がなくなるのではないかと思われる。家庭では教えられないのであれば、学校で教えていくことになるのか？日本の食文化を守っていきたい。	3	市内すべての市立小学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、箸の持ち方も含めて食育を推進しております。(なお、家庭においても箸の持ち方も含め、食育が推進されるよう取り組んでまいります。)

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
50 学校給食の内に少しでも多く国産の生産物を使用しようという発進を強く希望する。その他、内容については、言えきりがない。とにかく、市として行っていただけるだけでうれしい。	4	現在も、小学校給食において、市・県内産農畜産物を使用したメニューを採用するなど、国産の農畜産物を積極的に使用しております。今後、この取組を、さらに充実させてまいります。
51 20～30代の男性は朝食をとっていない人も多く、調理もあまりしないのに、あまり積極的な具体案がないようだ。高校を卒業し、一人暮らしが多くなる年代にこそ、食の大切さ・栄養のととり方・注意すべきことをしっかり教える方法を考えてほしい。	2	20～30代の方々への食育の推進は、重要な課題の一つで、具体的かつ効果的な施策の方向性を、検討してまいります。
52 食育という言葉自体は聞いたことがあるという人が増えている中、すでにある「食育月間」「食育の日」のほかに「朝食実施デイ」「家庭での全市マナー向上デイ」「飲食店での食べ残しゼロデー」を実施することがかえって逆効果となってしまうのではないかと(煩雑感と誤解をまねく)、「食育の日」を活用して、食育の内容を理解し、実行していくことができるようになるのが先決ではないか。	2	「食育月間」「食育の日」を活用しつつ、市民の皆様によりわかりやすい方法により、全市的な呼び掛けを実施したいと考えています。
53 横浜市全体の計画なのではないかと思って読んでみると、「学校に働きかけを行う」という一文が出てきて驚きました。私立の学校はともかく、市立の中学校などとは計画案を作る段階で連携すべきものではないか。	3	計画検討委員会に学校校長会の代表者が参加するなど、計画素案の策定にあたって、学校における取組との連携しております。ただし、学校の教育課程は、文部科学省の学習指導要領を基本とし、授業の方法等は各学校に裁量があるため、協力を求める表現にしています。
54 食品の安全性に関する知識があると回答した人は10代では全体より低いとあるが、色々な知識を得るために勉強している年代では当たりまえのことと解釈でき、これを理由として小・中学校での食の安全教育の実施を新たな取組としてあげるのはいかがなものか。自分の体を作っている食物のこと、その調理方法や安全性について授業などで取り組んでいくことは当然ではないか。	6	食中毒の予防や食の安全性について、学校の授業での取組が充実することを目指しています。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
55 現代の人々が食べ物を大切にしないことは、食物などの生産の現場を知らない事が大きな理由の一つと思われる。お米ができるまでには八十八の手がかかるなどと言われて育ったが、実際に田植や稲刈りの経験があれば食物を生産することが、いかに大変なことかおのずと理解できる。お店に並ぶ前の野菜などの生育の姿を子ども達に見せてあげることが大切である。	4	市民利用型農園制度による農業体験や直売所の拡充や「はま菜ちゃん」の広報など、地産地消を一層推進するとともに、市場での交流事業の実施等により、農畜水産物に関心を持っていただきたいと考えています。
56 食育は親から子へ伝えるのが一番である。日頃の家庭の食事で伝える、これに勝るものはない。啓発を紙ベースでもあまり読まないのでは・・・	4	普及啓発が重要であると認識しており、新たに民間事業者とタイアップした食育の 프로모ーションを実施していきたいと考えています。
57 小学校の各学年で一年に一度位、親子料理教室等はどうだろうか。地物の野菜をたっぷり使って、又、生産者を招いている話を聞いたりともむずかしいとは思いますがかなり親には勉強になる。	2	料理教室等を通じて、生産者との交流及び生産現場への理解の向上が促進されるような取組の充実を検討してまいります。
58 配食サービスのネットを充実させ、見守りや安否確認などにつなげていくという取組はとてもよい事である。	4	食を通じて、地域の交流がうながされ、特に高齢の方々の生活が充実することを目指しております。
59 私の知り合いにも、ひとり暮らしの高齢者の方がいるが、スーパー等で買ってきたお惣菜などを一回で食べず、分けて食べているので、食中毒など心配している。	2	地域での交流だけでなく、高齢の方々の食の安全についても検討を進めてまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
60 食の基本は安全であることは当然であり、今の日本では賞味期限など「食の安心」に関する事にかなりの比重がおかれている。安全をおろそかにせず、「MOTTAINAI」を進めることに賛成であり、新しい視点で「MOTTAINAI」を推進してほしい。	4	食品ロスを減らす取組を今後とも、一層推進してまいります。
61 学校教育の中で食育の重要性についてもう少し実践してはどうだろうか。	3	現在も各市立学校において、学校ごとの食教育推進計画を策定するなど、食育に関する取組を実践しておりますので、今後さらに、推進してまいります。
62 若者達は食べ物の好き嫌いが多すぎる、又、肉食や加工食品に片寄っているのではないだろうか？もっと野菜・魚・果物・海草・山野草等の効能について食育の中で教えてやって欲しい。	3	野菜摂取や食事の栄養バランスの重要性については、「健康横浜21」計画に基づき、普及啓発に取り組んでいます。若い世代が食に対する関心を高めて、食に関する知識が増えていくことを目標に取り組んでまいります。
63 食育はまだまだ、認知が足りないのが現状ですが、横浜は地産地消や美味しいグルメなどがたくさんあるし、もっとPRを行い、イベントだけじゃなくプレゼントや景品を当たるとい工夫をし、楽しめる食育につながると思います。	2	従来手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めていただけるよう取り組んでまいります。
64 特に若い人は朝食を食べない人が多く、飲食店と協力し、「朝食べようイベント」を行い、割引する等に実施すれば、生活が変わるチャンスは生まれていくと思う。	2	朝食を食べる人を増やすことについては、「健康横浜21」計画に基づき、普及啓発活動を実施しています。これからも、民間事業者等の方々のご協力を得ながら、若い世代の朝食摂取の啓発に取り組んでまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
65 横浜ブランドを生かし、もっとアピールすべきです。JA等地場物はとても人気があります。スーパーなどと手を組み、美味し事を強くアピールするため、手頃価格の提供キャンペーンをやってもらいたいです。	2	横浜産の農畜産物が、より一層市民の皆様にとって身近となるために、様々なキャンペーン手法について、民間事業者の方々のご協力を得ながら今後検討してまいります。
66 幼い子ほど農家の方々と協力して手に触れてもらいたいです。全体アプローチの中で今年はこれと根をはれる作業からスタートして、早々に取り組んでもらいたい。出来る事は何でも協力したいです。	2	現在も、一部の学校において、農業見学や体験を実施しております。今後は、現在、実施していない学校においても、可能な限り実施するよう検討してまいります。
67 食生活とは・・・栄養とは・・・気軽にそして開放された学べる機会を横浜市は整えてみても面白いのかなと思う。修了した市民には、食生活マスター的な楽しい証を渡すとか、もっと市民が参加できることをやってほしい。	4	すでにJA横浜により、「食農教育マイスター」という資格制度が実施されております。今後は、この資格がさらに市民の皆様への食育の推進に活躍できるよう、支援してまいります。
68 景品にモスバーガーという姿勢に問題あり、と思いませんか。	6	より多くの市民の皆様に関心を持っていただくため、素案への意見募集に景品を付けて実施しました。株式会社モスフードサービス様は、かねてから食育に取り組んでいることから、御協賛いただいたものです。
69 食育意見募集の景品については、十分に検討をしたうえで決定しているのだろうか。	6	意見募集の際の景品は、本市共創推進事業本部を窓口として、ウェブサイト等により募集しました。株式会社モスフードサービス様、横浜マリノス株式会社様は、かねてから食育に取り組んでいることから、御協賛いただいたものです。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
70 たとえば、コンビニなどで、実際に献立を考え、購入するなど実習といった形の研修を小学生のころから学ばせる。 また、最近の外食産業はバフェ形式が増加してきているが、バフェなどでも実習を行い、総カロリーやバランス、を学習する。	2	子どものときから、食に対する関心を高めることができるような食育を推進してまいります。
71 よく知るとか書くと、教材を作るとなりがちだが、やはり今はそういう知識ではなく体験を重視したほうが良いのではないか？そのシステムづくりを行政がシンプルな構造で作ってあげる事が大事である。例えば農業体験(1ヶ月前後)→市場での流通(農業体験で取れた野菜をスーパー等で販売)→家庭での消費、レストラン・工場での惣菜への使用(同じく職業体験)→生ごみ処理→ごみのその後(リサイクルなど循環型の仕組み)などサイクルをすべて体験させ、そのまとめとして年度末等に知識・体験として発表する機会を設ける。	2	農業体験ができる市民利用型農園制度等を通して農業を知る取組から、市場などにおける流通から消費、資源化にいたる循環の仕組みを知る機会の充実を図ってまいります。
72 横浜市の中학생では、お弁当持参の学校だが、義務教育である以上、教育の中に食育も含まれると思うので、給食にしても良いのではないか。	2	現時点では、中学校給食を実施する予定はありませんが、中学生への食育の推進について、検討してまいります。
73 企業と地区団体が協力したり、学校との繋がりを持った方が食育を早い段階から知識として身につけることができるのではないかと思う。	4	民間事業者の方々や市民の皆様に最大限の力を発揮していただけるよう、食育推進を展開してまいります。
74 遺伝子組み換え食品や農薬等、理解した上で消費者自身価値観に基づいて選択するような食品についても知る機会が必要かもしれない。	3	食の安全については、これまでも普及啓発活動を実施しておりますので、今後の活動の際の参考とさせていただきます。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
75 食品アレルギーやその表示の見方についても理解が必要である。	3	食の安全については、これまでも普及啓発活動を実施しておりますので、今後の活動の際の参考とさせていただきます。
76 30代以上の男性は学校で家庭科を習わなかったため、基礎知識が不足しているかもしれない。	2	今まで、あまり食に関心がなかった方にとっても、取り組みやすい食育を推進してまいります。
77 料理教室が婚活の場ともなっているようなので、料理の習得のためだけでなく、社交の場としても料理教室を宣伝し、男性のモチベーションを高めることも考えられると思う。	2	今まで、あまり食に関心がなかった方にとっても、取り組みやすい食育を推進してまいります。
78 調理について断片的な知識しか持たない人が多くなっていると考えられ、食べている料理にどのような食材が使われ、どのように調理されているのか知る機会が必要である。	2	食材が食卓に上るまでの過程を知る機会がより一層推進されるよう取組を進めてまいります。中央卸売市場においては、水産物の普及啓発・消費促進を目的として、主に団体を対象に調理教室を実施しています。また、小学校と連携した食育教室を実施し、調理を含めて食に関する理解を深めていただいております。
79 食事が提供されるという受身だけでなく、食事を作りたい人が作ることができる機会作りも考えられる。	2	高齢の方々への配食サービスなど、ボランティアの方々により実施されている取組もあります。これらの取組を支援し、活動の拡充につなげていくようにしたいと考えています。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
<p>80 一人暮らしの高齢者に若い一人暮らしの人が、料理を教わるのもいいかもしれない。例えば以下のようなシステムが考えられる。 公民館等の調理スペースと会議室等を利用。料理をしたい方がボランティア(+α)で料理、運営。料理を食べたい人は料金(実費+α)を支払い、コミュニケーションを取りながら食事。</p>	2	今後の取組の参考とさせていただきます。
<p>81 フードバンク※の取組についてもご紹介してもいいかもしれない。※食品企業の製造工程で発生する規格外品などを引き取り、福祉施設等へ無料で提供する団体・活動 農水省 フードバンクのホームページ http://www.maff.go.jp/j/soushoku/recycle/syoku_loss/foodbank/index.html</p>	1	計画の中にフードバンクの紹介を加えます。
<p>82 食育推進活動の定量的な効果測定手法があれば、より取り組みやすいかもしれない。</p>	4	一部の食育推進の目標において、数値目標を設定することにより、推進状況の効果測定を行います。
<p>83 食育は個人レベルでも実行されべきだが、やはり小学校で重点的に行われるべきである。私は小学校における食育を通じて、日本食の特質(善くも悪くも)を伝えて欲しいと切に願う。</p>	3	市内すべての市立小学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、食育の推進に取り組んでおりますので、今後さらに推進していきます。
<p>84 食育というのは、長い目で見れば食文化の形成に多大な影響を及ぼすものであると考えられる。しかし現在のグローバリゼーションが進行した社会においては、通常の食事が欧米化してしまっている。その方が安価で手軽な食事であることもあるだろう。そのような状況下で個人レベルでの食育を通じて特に日本固有の食文化を伝えることも、維持していくのは困難ではなからうか。それゆえ、学校の給食に日本の食文化を伝えるような献立を設け、食事を通して日本を学ぶべきであると考えます。</p>	3	市内すべての市立小学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、食育の推進に取り組んでおり、日本の食文化についての学習や和食を取り入れた給食実施など行っております。今後もこの取組が継続的な実施に努めてまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
85 愛国心を養う教育の推進を是とするわけではないが、国際社会において他国を相手にする際、まずは自国に通じているというのは当然だろう。入社試験にあたって自己分析をしないということが有り得るだろうか？英語を学習指導要領において必修にする前に、日本を知ることが義務教育では必要なのではないだろうか。上記のような理由から、私は小学校における食育を通じて、日本食の特質（善くも悪くも）を伝えて欲しいと切に願う。	3	市内すべての市立小学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、食育の推進に取り組んでおり、日本の食文化についての学習や和食を取り入れた給食実施など行っております。今後もこの取組が継続的な実施に努めてまいります。
86 食育は学校でも推進すべきと思うが、同時に保護者に対しての働きかけが重要である。三食のうち二食は家庭でたべるので保護者の協力が不可欠である。	2	子どもへの食育については、学校での食育に関する取組が家庭においても可能な限り実践されるような手法について検討してまいります。
87 食育は、学校や保育所等の教育機関での普及啓発も重要であるが、何より家庭での日頃からの実践が必要不可欠である。食育に限らず、生活習慣等も同様であるが、家庭では適当で、学校等でのみ実践していても、何物も育たない。もっと、家庭で、身近な大人が意識を持って日々考えていかないといけない。学校等教育機関のみで推進できるものではなく、また、それでは表面のみのものになってしまうのではないか。他人まかせにしないで、家庭での日々の実践が何よりも重要であると思う。	2	従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様へ食育への関心を高めていただけるような取組んでまいります。
88 ダイエットや体にいいといわれる食材などには興味を示すが、食べ物の産地などを細かく気にする人は少ない。そのため、興味のあるものから関心を引き内容を食育に持っていくのがよいのではないか。	2	食育を構成するさまざまな要素について、自分の関心のあるものから少しずつ実践し、徐々に食育に対する理解が深めていただくような取組を実践したいと考えております。
89 食に関する昔から言われてきたこと、例えば「腹八分目」など、を考えていくことも良い食育になると思う。	2	今後の取組の参考とさせていただきます。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
90 計画を一通り読んで見て、小学校では最近ハマ菜ちゃん・横浜の野菜を使ってメニューが増えていたり、トラックで野菜の販売をしている八百屋さんなどで、チラホらはハマ菜ちゃんを見かけるが、野菜以外のものはなかなか見ることがない。	2	「ハマ菜ちゃん」以外の横浜産農畜産物のシンボルマークの普及について、検討してまいります。
91 子供達の食生活が変わったのには、親の影響は大だと思ふ。両親が共働きなどでは、なかなかみんなが顔をあわせて食事が出来ないだろうとも思ふ。我が子の友達で、学校から帰ってきてお腹が空いたからといって、1人でコンビニの巻き寿司を買って食べながら歩いていた・・・と聞き、とても驚いた。我が家では普通に食べている「高野豆腐」も食べたことがないよ？と言う子もいたくらいです。給食には入っているのに、子供達は何を食べているのか？何が入っているのか？あまり興味がないのでしょうか？	2	お子さんのいるご家庭への働きかけなど、従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めていただけるように取り組んでまいります。
92 食育は、まず各家庭にちゃんとした食事環境を整えさせる事から始まると思ふ。両親の生活習慣は子供にそのまま受け継がれていくものであると思ふ。	2	お子さんのいるご家庭への働きかけなど、従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めていただけるように取り組んでまいります。
93 他にも学校給食でも、献立表だけではなく、一部の給食メニューを家庭でも作れるように、レシピを公開したり、保護者への料理教室もいいと思ふ。私も小学生の保護者として、これからも横浜の子供達の食育には興味を持っていこうと思ふ。	2	今後の取組の参考とさせていただきます。
94 もっと食事に興味をもってもらうには地域のお年寄りなどとの交流もいいと思ふ。昔からの知恵を教えてもらえたり、料理の基礎や今まで食べていなかった食材への興味も出ると思ふ。	2	地域の高齢の方々との交流を通して、若い世代の食への関心を高めるとともに、同時に高齢の方々の食育の推進にもつながるように取り組んでまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
95 「食育」はいかにも官僚的な言葉なので、できればもう少しわかりやすくやわらかい言葉を使えば良いと思う。「食生活の大切さを考え直す試み」というのはどうだろうか。	4	本計画は、「食育基本法」に基づき策定しており、「食育」という言葉を使用しています。「食育」の意味については、食育を構成する要素について表にするなど、わかりやすくするための工夫をしております。
96 フランスの小学校で、ミシュランの3星レストランの有名シェフが、特別授業をして食の大切さを教える試みをやっていた。横浜でも同じ試みをやって、メディアにのせれば効果的であると思う。	3	これまで、ガストロノミ協議会等の団体により、市立小学校においてレストランシェフによる料理教室等を実施されております。今後は、それらの取組のより一層の推進、効果的な広報についてもさらに検討してまいります。
97 今の大人を食育しなければ始まらない。	4	年代を問わず、すべての市民の皆様を対象として、食育の推進に取り組んでまいります。
98 それから給食！ここも是非お米と言う原点に戻って子供達の食育について考え、やり直してほしいと思います。アレルギーの子供を持つ親としてお願いしたい。	3	栄養教諭の配置等により、小学校給食の充実、アレルギーに配慮した給食の実践を行っております。今後もより一層の推進に努めてまいります。
99 小さいころから覚えるように、幼稚園・保育園から食事の大事さ大切さを教えるプログラムが必要である。大人よりもまず子供からと思う。大人もわかっていないと思うので、TVと協調して番組を作ることも考えたほうがよい。	2	お子さんのいるご家庭への働きかけなど、従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めていただけるように取り組んでまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
100 食育は、是非推進してほしい。田舎育ちのわたしですが、小学校の頃、食べ物の大切さを先生から習った記憶はない。ただ、周りに農家がたくさんあったし好き嫌いがなかったので食べ物を残すという考えはなく育った。今となっても何か体験したり触れたりといった行事が増えると素敵であると思う。	4	直売所の拡充や「はま菜ちゃん」の広報などにより、地産地消を一層推進するとともに、市場での交流事業の実施等により、農畜水産物に関心を持っていただきたいと考えています。
101 大人になり、いろんな人と食事していると、箸を正しく持てなかったり食べ方がとても汚い人をたくさん見かける。個人的にまず、そこから教育してほしいという希望がある。みんなが気持ち良く食事するためにどうだろうか。	4	食事のマナー向上を呼び掛ける取組を考えています。
102 横浜は外国とのつながりも強いので国際的な面での部分も特色として出せると思う。	2	中華街との連携など、国際性を特色として出せる取組を進めていきたいと考えています。
103 私は小学校1年から横浜市に在住し、市立小学校で学んだ。その際に鮮明に記憶し、今でも生活習慣として身に付いているものに「歯磨き体操」による歯磨き習慣がある。昭和30年代後半から、横浜市では小学校に専門の横浜市職員の歯科衛生士が歯磨き指導の巡回に回っていた。今でも続いていると聞いている。これは、確実に児童の歯磨き習慣化につながり、我々の親の世代と比較して圧倒的な虫歯罹患率の低下に繋がっているものと考えられる。地域の歯医者者の検診とは一線を画し、行政として取り組んだ素晴らしい施策だと思う。	3	※「歯磨き指導」の実施状況等について記載をお願いします。
104 今回の食育事業の展開に際しても、地域毎の特徴にマッチしたテーマ選択や活動のヒントを与える事を坦務とする専門スタッフを数人程度置き、小学校を活動の原単位と位置付け開始する。それを継続的に行うことが非常に重要かつ効果的である。その取組が、学校からPTAさらには地域の自治会、敬老会等へ拡げる事を次のステップで取り組むことを考えてほしい。	5	現時点では、小学校への専門スタッフ配置は考えておりません。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
105 食育を啓蒙するために学校教育の中にも、食育の授業をもうけてはどうだろうか。	3	これまで、市立学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、食育の推進に取り組んでおります。平成23年度から実施される学習指導要領には食育の推進が掲載されており、家庭科等の既存の科目授業を通じて取り組んでまいります。
106 食育を啓蒙するために職場の福利厚生の中に食育というカテゴリーをもうける、それには官公庁が率先垂範してはどうだろうか。	2	現時点では、食育を福利厚生に位置づける方向性は検討しておりませんが、横浜市役所の中で率先して取り組むことができる食育の推進については、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。
107 食育を啓蒙するために、地域活動の一環として、栄養素の図やその食品図など食育を啓蒙するパンフを毎年1枚各戸に配る。(壁に張れて毎日目に止まるようなもの)	3	現時点では、栄養に関するパンフレットの全戸配付は考えておりませんが、ウェブサイト等を活用し、普及啓発を進めています。
108 食品の食べ残し廃棄の問題について真剣に企業が考えないといけないと思う。もったいないと企業の存続矛盾しているが、両立できる社会が本当に大切だと思う。	3	食品の廃棄については、事業者の取組に加え、市民の皆様一人ひとりの意識を高めることが重要であると認識しております。
109 今では、バランスガイドの成果がどうなったのかなあと、思わず「昨年いっぱい終わりました」と宣言されるのではないかと思った。「健康日本21」「健康横浜21」の成果はどうなっているのか・・・新しいものを作るのではなく、今も根強く息づいている良い習慣を大事に掘り起こすような企画が欲しい。	4	「健康横浜21」計画をはじめ、その他の既存の計画がより一層推進されるように、食育推進計画を策定しております。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
110 横浜を代表するマリノスやベイスターズの合宿所の食事メニューの紹介、特に管理栄養士による栄養学的な分析、何故いまこれが必要なのか、食べるとどうなるのか、それを習慣づけることでどう変わったのか、それを栄養士の先生の立場と、実際に食べている選手の立場から発言するのをDVDにとり、小中高に配布して食育教育のきっかけとする。好き嫌い、朝食の欠食、体にいいもの、バランスの大切さ…食事と健康の関係から食育へ	3	市立学校で配付している「食教育だより」では、横浜F・マリノスの御協力により、選手の食事などを紹介しています。市内のプロスポーツチームで実践されている食事に関する取組について、プロスポーツチームとの連携を進めることにより、市民の皆様の食育の推進に役立たせたいと考えております。
111 パン給食や肉食は最悪であると思う。近年の病人の激増(医療費高騰)の原因は食の欧米化で、その引き金は戦後のパン給食。今は高齢者も朝食は殆どパンである。肉・牛乳・油脂等の増加がメタボやがん激増の主犯であることは明らかで、事実、昭和35年と比べて米の消費は半減、野菜・海藻は減少し、肉・牛乳・乳製品・油脂類は約4倍である。「完全米飯給食」などで食の欧米化にブレーキを掛けない限り、即ち「和食の復活」=「ご飯好き」「味噌汁好き」の人を増やさない限り、心身共に健康な日本人を作ることと医療費を減らすこともできないと思う。	5	学校給食での米飯を週3回まで増やしてきましたが、これ以上の増加は提供体制上、困難な状況です。
112 日本を長寿世界一にしてくれた和食が世界最高の健康食であることを親に幼・小・中・高・大学生に、多くの人々に知らせることが必要である	5	横浜は開港以来、海外から様々な文化や技術を取り入れて発展し、アイスクリーム、パン、ドリア、ナポリタンなどは横浜経由で日本全国に広まった歴史があります。このような歴史を活かしつつ、食育推進に取り組んでまいります。これまでも、「健康横浜21」計画に基づき、食事に野菜を多く取り入れることを呼び掛けています。
113 妊産婦に徹底的に食育の大切さを知らせることが必要である。女性が最も命や健康、食事のことを考え、悩むこの時期に徹底的に義務教育的にサポートする。幼児虐待など起こさぬよう支援教室をいたる所で開催し、実践(和食料理教室)も行う。地域の中高年の方にも協力して頂く。	3	妊産婦の方へはパンフレットの配付や相談などで、食事で気を付けることなどを伝えております。特に、妊婦の方には母親教室で、食事の大切さについての講話を行っており、今後も継続していきます。
114 幼・小・中学校での完全米飯給食の実施を先生方や自治体、議員の方々をお願いする。完全米飯給食で子供達の非行がゼロになった長野県旧真田町では大人の犯罪も半減した。米飯給食で子供達の心と体が健全になったので和食中心の家庭が増え、大人も和食になって心身が安定し、犯罪が減っている。完全米飯給食は地産地消を進め、農業・漁業をも健全にする。	5	学校給食での米飯を週3回まで増やしてきましたが、これ以上の増加は提供体制上、困難な状況です。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
<p>115 現在、小学校においては、「早寝、早起き、朝ご飯」という呼びかけをしているが、文科省はこの呼びかけの仕掛けとして、Jリーグの選手に呼びかけさせたり、やなせたかしにキャラクターを作らせたりしている。この仕掛けの効果は定かではないが、こうした学校の動きと連動した「食育」推進の仕掛けをすることで、子どものみならず親を巻き込んだ成果を得られるのではないかと思う。そのためには、こどもと親が楽しみながら「食育」について考え、体験するアイデアが必要である。こどもにとっては、遊び心をくすぐられ、親しみやすく、親にとっては食欲をくすぐられ、金銭的なお得感も得られるアイデアが期待される。</p>	3	<p>市立学校で配付している「食教育だより」では、横浜F・マリノスの御協力により、選手の食事などを紹介しています。市内のプロスポーツチームで実践されている食事に関する取組について、プロスポーツチームとの連携を進めることにより、市民の皆様の食育の推進に役立たせたいと考えております。</p>
<p>116 大学生から小学生を持つ子供の母として、嬉しく思う。小さい頃から、安心して生命力あふれた自然農法産のお米や野菜を食している私は食に興味がある。なので、もっと自然環境の安全でもある体に良い食材が購入できるかなど、消費者への情報提供をお願いしたい。広報なり掲載をお願いしたい。(自然農法を実施している方々の掲載など)</p>	5	<p>安全安心な農産物の供給を進めるため、環境保全型農業を推進しています。</p>
<p>117 食育として、安心な農産物が学校給食に導入されたいと思う。</p>	3	<p>現在も、小学校給食で使用される食品の安全性については、配慮しておりますが、今後より一層、安全性が確保されるよう努めてまいります。</p>
<p>118 若い世帯の食に対する知識不足を感じる。幼児を連れて夜遅くに外食したり、遊興施設を利用する姿を多く見かける様に感じる。子どもの生活リズムを整え、正しい食習慣を身につけさせることの大切さを理解して欲しい。特に20代の朝食欠食は子どもも欠食させることが多くあることが、国民栄養調査の結果からも推測される。幼児の食事は体と心を育てるために、おとな以上に大切な物であることを若い親に知ってもらいたい。また、正しい食生活(生活習慣を含む)は小学校、中学校の学習への影響もあることを知って欲しい。これからの子どもたちを育てるために、特に力を入れて取り組みたい内容と考える。</p>	2	<p>お子さんのいるご家庭への働きかけなど、従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めていただけるように取り組んでまいります。</p>

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
119 横浜の農業を応援する。横浜でがんばっている農家の方々が長く農業を続けられるように、応援したい。はま菜やハマツ子等をうまく活用して販売を意識した農業をやってほしい。	4	横浜産農畜産物が、より一層市民の皆様にとって身近な存在となるために、普及啓発手法について、民間事業者の方々と協力しながら今後検討してまいります。
120 どうしても農家に高齢者がおおくなりがちなので、援農の制度が発展するように、行政の目と力を注いで欲しい。	3	「農家のお手伝いをしたい」「農と関わりたい」という市民の皆様を対象に、市民農業大学講座を行っています。そして、その修了生が、援農活動をするなど担い手不足の解消に取り組んでいます。
121 野菜の消費量が少ないことには、料理を担うことの多い女性の多忙が関係している。日々の仕事が忙しく、帰宅時間がおそくなりがちなたちは、買い物に行く時間が少なく、スーパーなどに夕方遅く行くと野菜はいい物がなくなっていることが多い。ある程度の人数がいる事業所等に農家が定期的に野菜の販売に行くというのはどうだろうか。野菜は重く、まとめて購入するにはきっかけが必要である。(実際私の勤める小学校で、農家の方に野菜を持ってきてもらう機会を作ったところ、大変喜ばれ、みなさんたくさん購入され、たくさん食べたと言っていた。「また、販売に来て欲しい。」とほとんどの方に言われている。)小規模の農家でも、1つの事業所に持って行く程度のやさいなら対応出来るだろう。「野菜は食べたい、でも購入する時間の余裕がない。」という現実があることを知っていただき、今後の取り組みの参考にしてほしい。	2	今後の参考とさせていただきます。
122 農業体験はとてもよいことで様々な取り組みを期待したい。私も農家の方とチームを作り、体験活動に取り組んでいるが、いつも大変喜ばれている。体験のためには多くの農地と農家の方の協力が必要である。特に、収穫物は体験人数よりもかなり多くのものを用意しておく必要があり、農家にとっては効率の悪いものとなりがちである。収穫されずに残る分や使えなくなる土地の補償を含め、取り組みを進めて欲しい。また、幼児の体験は収穫のみでも良いと思うが、年齢に応じて、土作りから収穫まで一連の流れが分かるような体験を入れていく必要がある。特に自然相手ですぐにうまくいかないことがあること、収量を多くすること、薬剤散布等が無縁では無いことなどの現実も知ることが出来るような体験ができるようになると思う。	4	農家の御協力をいただきながら、市民利用型農園などを実施しています。その中の「栽培収穫体験ファーム」や「環境学習農園」では、開設者や農業者が新しい指導的な農業経営に取り組むにあたり、様々な諸経費が生じるため、施設整備・管理運営支援をさせていただいているところです。これらからも、農家の方に過度の負担がかからないように留意しながら、市民の皆様が農業体験を通して農業の魅力、難しさを肌で感じてもらえる機会を拡充していきたいと考えています。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
123 食を家庭の問題に帰結させようという論調もあるが、やはり社会全体で特に小学校・中学校で指導してもらわなければ困る。というのは、家庭でいくら食卓のマナーなどを注意しても、学校でOKだったら、子どもは家の中ではマナーを守るが外では守らなくてよいという間違ったメッセージを受け取ってしまう。	3	市内すべての市立小学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、マナーも含めて食育の推進に取り組んでおります。今後もこの取組の継続的な実施に努めてまいります。
124 農業見学や体験は個人では難しいのでスケールメリットを活かして学校で積極的に取り組んで欲しい。	2	現在も、一部の学校において、農業見学や体験を実施しております。引き続き実施できるよう検討してまいります。
125 ただ今0歳6か月の男児を1人子育て中で、離乳食が始まり、食の基本について改めて学んでいる。食べることは「生きること」につながっていると、子どもの成長を側で見ながら実感している。子どもが産まれる前、妊娠する前はおろそかになりがちだった食生活であるが、これからは子どもと共に食について楽しみながら学んでいきたい。市としてさまざまなサポートをさらにわかりやすくして下さるとうれしい。	2	子育て中の保護者の方々が、子どもの食育に必要な知識等を身につけることができるようなサポートについて、検討してまいります。
126 娘が小学校の頃は、給食の献立表などに食育のことがよく載っており、はま菜ちゃんや地産地消についても学習していたが、中学校に上がった途端、ぱったりなくなってしまった。ぜひ、中学校でも給食センターからの給食を配布するなど、食育について積極的に取り組んで欲しい。	2	現時点では、中学校給食を実施する予定はありませんが、市立中学校においても各学校で食教育推進計画に基づいた食育を推進してまいります。
127 「食事バランスガイド」を参考にして献立を考える時、スーパーマーケット等で作成している小冊子に掲載していただくとわかりやすい。	2	市民の皆様が食事の栄養バランスを考えるにあたって参考にしやすいよう、今後も引き続き食事バランスガイド等の活用について、スーパーマーケット等の民間事業者の方々に働きかけていきたいと考えております。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
128 学校給食(保育所給食)試食会でも、「食事バランスガイド」に沿った献立をしてほしい。	2	学校や保育所の給食メニューは、栄養バランスに配慮したものとなっております。
129 障害者が作る食品については公共施設のみならず、ケアプラザなどの販売を考えてはどうだろうか。	3	障害者が作る食品や様々な製品について、公共施設に限らず販路の拡大に今後とも努めてまいります。
130 スーパーなどに、市内産物のコーナーを設け、市内産の普及を促してはどうだろうか。	3	現在も、一部のスーパーマーケットにおいて、市内産物のコーナーが設置されております。今後、このような取組がさらに推進されるよう、民間事業者の方々への普及を検討してまいります。
131 学校での食育教育の充実のため、小学校は給食時に、中高では昼食時に指導してはどうだろうか。	3	市立学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、食育の推進に取り組んでおります。今後もこの取組の継続的な実施に努めてまいります。
132 カップメンなどを食べることの弊害を積極的に教えていく必要がある。	2	今後の参考とさせていただきます。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
133 食育は、子を持つ親になれば大なり小なりしている方がほとんどのはず。ただ聞きたい事知りたい事を調べるときに、情報提供していただけたところがありすぎて迷ってしまう事が多々ある。何が正しいのか困ってしまう。	2	市ウェブサイトにも食育のページを設け、食育に関する情報を集約したいと考えています。
134 子を連れて行ける食育の勉強会を対象者別に行っていけたらありがたい。	2	現在も、保育所で実施する給食体験など、親子で食育を学ぶ機会を設けておりますが、今後さらに多くの場でそのような取組が推進されるよう検討してまいります。
135 行動指針その2P15「食育すごろく」は良いと思われるが、目標対象が親であることを考えると適当ではない。	3	「食育すごろく」は、乳幼児を対象とした食育の推進のために作成しておりますが、親子で取り組むことにより、親への食育推進にもつながります。現在、市ウェブサイトにも掲載し紹介しているところですが、今後は保育施設等を通してより多くの親子に食育に対する関心を高めてもらえるよう努めてまいりたいと考えております。
136 乳幼児の親が出向きそうな場所でアピールできることをしてほしい。ちらし、パンフレットでは効果は見込めない。	2	従来より区役所等で実施してきた乳幼児の食に関する啓発の取組をさらに充実させ、身近な場所で多くの市民の皆様が食育を意識できるような仕組みづくりを進めてまいります。
137 駅・スーパー等の一角でバランス食の見本を並べる	2	食事の栄養バランスについて、より多くの市民の皆様を意識していただけるような取組を、今後、進めてまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
138 (乳幼児の親が出向きそうな場所に)相談者を配置してはどうだろうか	3	区役所や子育て支援拠点において栄養相談を実施しておりますが、より相談しやすい仕組みについて検討してまいります。
139 ネットでゲームもいいかもしれない。いろいろな食品、料理をバランスよくできるようセットして点数をつける等。	2	食事の栄養バランスや調理について、楽しく実践することによって、より多くの市民の皆様が関心を持つことができるような取組の方向性を検討してまいります。
140 障害者施設の食品を一同に介するのは難しくても、様々な所で売ってほしい。区役所だけでなく、もっと地区センターなどでも売ってほしい。	3	障害者が作る食品や様々な製品について、公共施設に限らず販路の拡大に今後とも努めてまいります。
141 (食の安全確保について)1人1人の注意はもちろんのこと、事業者に対する指導チェックを念入りにしてほしい。	3	食の安全確保については、市民の皆様への啓発とともに、事業者に対する指導についても取り組んでおります。
142 全体的に食事バランスガイドのコマは使いづらい、2週間徹底してやってみたが、それ以上続けられない。老年になってもできるような食品群にマークして色別に6群7群のバランスが分かるような表にしてほしい。	2	食事バランスガイドに限らず、様々な指標により、市民の皆様にご食事の栄養バランスに配慮していただけるような取組を実践してまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
143 本計画の「よこはま指針」ごとの4つの章立ては、私たち市民に解りやすい構成になっている。それぞれの章での現状・課題が把握されているので、食に対して市民の関心を高めるために、あらゆる手立てが必要である。	2	従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様へ食育への関心を高めるいただけるような取組を進めてまいります。
144 教育現場では、6月は食育月間として様々な取り組みをしている。学校における食育の目標である食の重要性や伝統的な食文化を伝えている。本市も6月は、食育月間と市民に広報し食への関心が高まるようにしてはどうだろうか。例えば「食事バランスガイド」の普及・啓発の強化月間として、様々な機関と連携を図り、効果的な広報活動を実施してはどうだろうか。	2	食育月間等の機会を活用し、全市的な食育の推進を図っていきます。
145 横浜の食文化の普及・啓発のため、昨年度市内小学校で実施したスペシャル給食は効果的でした。今後も横浜にゆかりの深い学校給食の献立を紹介してはどうだろうか？	3	市立小学校のスペシャル給食については、今後もさらに実施方法等を工夫しながら、積極的に実施してまいります。
146 PTAと連携して「早寝・早起き・朝ごはん」推進運動を実施している。夏季・冬季休業前には「早寝・早起き・朝ごはんカレンダー」を2種類(低学年・高学年用)を作成し、児童に配布している。このカレンダーは、家庭に啓発する効果的な取り組みとなっている。本市でも幼稚園・保育所、小学校にカレンダーの見本を配布してはどうだろうか。予算上の問題もあるので各機関で印刷し配布すると良いと思う。	2	カレンダー等を全市的に作成することは予算上の面から困難です。よい取組については、ウェブページ等の広報媒体を活用し、多くの場所で活用していただけるような仕組みづくりを検討してまいります。
147 本校では11月の地産地消月間に「はま菜ちゃん」の紹介をしているので、児童の認知度は大変高い。本市も11月は地産地消月間であることを市民に広報し、横浜野菜への愛着をもてるようにしてはどうだろうか？フードマイレージの観点からも市民に広報すると効果的である。	3	11月の地産地消月間では、イベントの開催などを通じて地産地消の普及啓発を実施しております。これからも市民の皆様への広報に取り組んでまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
148 食育に新たなシンボルキャラクター(ゆるキャラ)は不要だと思う。横浜産、横浜発祥、横浜名物などの品物には宮崎県みたいにわかりやすく目印をつけて、登録商品や店舗をホームページや広報誌チラシなどで一覧できると面白い。市民が市外へのお土産選びや、観光客が参考にするような・・・ずっと横浜市民だがサンマー麺が横浜のものとは知らなかった。	2	食育の推進に関するロゴやキャラクターの作成については、より活用しやすく分かりやすいものを作成する方向で、現在検討しております。
149 はま菜ちゃん・はまポークなどは良いシンボルマークだと思うが、統一性がなく、「あ！横浜のだ！」とは気付きにくい。マークや名称は色々でも、シールのフレームは統一してはどうか？	5	「はま菜ちゃん」等のシンボルマークについては、現在のものを改定する予定はありませんが、より市民の皆様に親しまれる、関心を持っていただける、マークの活用方法について検討を進めたいと考えております。
150 素案14ページのような基礎食品群をみても無理そうで実行しにくいので、どの家庭でも作れるようなメニューで横浜食材も取り入れた献立例をたくさん知りたい。	2	区役所では、様々なレシピを配付しておりますが、今後、より多くの市民の皆様に食事の栄養バランスに配慮した食生活を実践していただけるよう、ウェブページへの情報の集約などを検討してまいります。
151 私は農学部出身で、食には関心がありますが、一般的に若い世代特に未婚の男女は安全、流通、価格、調理共に興味がないと感じる。これからの未来を背負う世代に届く広報活動方法を考える必要があると思う。	2	従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めるいただけるような取組を進めてまいります。
152 言葉はよく耳にするものの、具体的な内容は正直よく知らない。家庭で気軽に実践できる内容があれば知りたい。	2	従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めるいただけるような取組を進めてまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
153 高齢世代の増加に伴い分かりやすい表示も必要である。	3	食品の表示は、食品衛生法やJAS法等に基づき、定められた方法で行われています。これからも、食品表示の見方等について、ウェブサイト、講座等を通じて、市民の皆様にお知らせしてまいります。
154 不正表示、不正販売の監視も同時に行わなければなりません。地域で活動している「推進委員」の力を借りてはどうだろうか。	3 2	食品の表示は、食品衛生法やJAS法等に基づき、定められた方法で行われています。これからも、食品表示が適正になされているか、監視を行います。地域の皆様のお力をお借りすることは、今後の参考とさせていただきます。
155 米飯を多用、地産地消(国産)そして昔ながらの食事が健康に結びつくのではないだろうか。	3	地産地消の取組を通じて、楽しみながら食生活に対する関心を高め、結果的に食を通じた健康につながることを目指してまいります。
156 給食では、旬の素材を使用、教員が子ども達に産地も知らせる。農・漁業・酪農等を身近に感じ、生きていることに感謝できるよう導いて欲しい。	3	市立学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、食育の推進に取り組んでおります。今後もこの取組の継続的な実施に努めてまいります。
157 「食育」はどの年代にも必要で大切である。私自身アレルギー性鼻炎(花粉症)になってから、食事の栄養バランスや安全性について徹底的に調べて毎日注意しているので、アレルギーや生活習慣病の予防・改善の為に最新の知識を習得する等、よこはま指針が普及して欲しい。	2	従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めるいただけるような取組を進めてまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
158 スーパーのチラシやレシピで栄養や安全性のことをよく見かけようになったが可愛いイラストや美容と健康効果で注目されるようによく出来ているので横浜市食育推進計画でも親しみやすいイラストやレシピでアピールして欲しい。	1	計画策定の際には、計画の内容をより分かりやすく市民の皆様にお伝えできるよう、図表やイラスト等を交えた計画概要版の作成を予定しております。
159 本来は家庭で皆そろって楽しく会話をしながらの食事から食育が形成されるが、それが難しいのであれば地域や自治体が協力しあうと良い。子どもはもちろん、全ての年齢を対象にした会食、じゃがいも掘りや野菜づくり、もちつき大会…今失われつつあることを是非開催して皆が「食」について考える、「おいしい」と思えるきっかけになってほしい。	2	従来の手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様へ食育への関心を高めるいただけるような取組を進めてまいります。
160 子どもが生まれるため、食品の安全性や栄養バランスについて、とりわけ関心を持った。離乳食の相談や栄養バランスについて相談できる機関が身近にあってほしい。	3	区役所や子育て支援拠点において、乳幼児の食育についての相談を実施しています。
161 子どもが成長するにつれて農業体験や食品工場の見学などができる機会を増やし、食べ物の大切さを学べるような取組を行ってほしいと思う。	2	現在も、農業体験は市民利用型農園で行われており、工場見学に関する取組も実施されておりますが、今後さらにこれらの取組が充実するよう、実施方法・広報について検討を進めてまいります。
162 この計画書の説明会をいろいろな組織やグループに上から下へ水が流れるように順次行う。	2	市民の皆様への計画の周知・説明方法については、今後検討してまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
163 戦前の食文化を実際に知っている年代はもう高齢なので、おじいちゃんおばあちゃんに何を食べ、どんな風な食生活だったのかを聞くことができたなら、子どもたちにとっても、私たちや後の世代にとっても宝物になると思うが、どうだろうか。	2	地域での交流を通じて、以前の食生活について、子どもたちに語り継がれるような機会を設けることができるよう検討してまいります。
164 横浜市で「戦前の食文化の記録」を作成するというのはどうでしょうか。私個人であればいいのですが、きっと市でやって下さった方が良いものが出来上がる気がしています。	5	現時点で「戦前の食文化の記録」を市として新たに作成する予定はありませんが、様々な取組を通して、戦前から受け継がれている食文化についても伝えていくことができるようにしてまいります。
165 小・中学校で1学期に一回自分で弁当をつくり、それを持って行き全員で弁当を並べて意見交換をする。予算を決めて、買い物からすべてを自分で行うことで、親と相談することになり、親との間でコミュニケーションがとれるきっかけになればと思う。それが、月一回とか週一回とかの一家の団らんにつながればなお良い。買い物をすることで、そのものの原型やどこでとれたものか、また旬はいつか、どういうルートで目の前に並ぶのか、興味がでると思われるので、授業の中で話し合うことができればよいと思う。	2	食事を通したコミュニケーションの充実や食材の本来の姿を知るための取組の一つとして、参考にさせていただきます。
166 成人する前の段階で作ることに興味をもつことが大事。	2	従来手法にこだわらず、さまざまな方法を検討し、より多くの市民の皆様に食育への関心を高めるいただけるような取組を進めてまいります。
167 「食育」については、学校(小・中)の教科の中に、きちんと取り入れるべきである。教育・体育と同じレベルで位置付けをして基本から学習すると良い。	3	これまででも、市立学校において、学校ごとに食教育推進計画を策定し、食育の推進に取り組んでおります。平成23年度から実施される学習指導要領には食育の推進が掲載されており、家庭科等の既存の科目授業を通じて食育の推進に取り組んでまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
168 スーパーの食品について産地を記入していない物がある。指導してほしい。	3	食品の産地表示は、JAS法等に基づき、定められた方法で行われています。JAS法を所管する神奈川県等と連携して監視指導を行います。
169 日本の食料自給率41%は、何かあった場合困るのは国民、もっと自給率を上げる様、行政は努力してほしい。	5	市・県内産農畜水産物の推進などの取組により、より多くの市民の皆様が食料自給率の問題に関心をもつことができるような取組を推進したいと考えています。
170 中国からの輸入食品について、ギョーザ事件以来ちゃんと検査しているか？安心できる食材を輸入してほしい。	3	輸入食品取扱業者の監視指導、輸入食品の検査を行っております。輸入食品の検査は、残留農薬や食品添加物などを重点に実施しています。
171 横浜が市として食育に取り組んでいることに対して、あるいはどんな活動をしているのか、まだまだ市民に周知されていない実情がある。興味を持っている市民は、各々の活動を掘り下げているだろうが、まず身近に食育を感じてもらう事、「教育の一環」という大上段からの色合いを排除し、楽しいイベントのひとつとして一人でも多くの市民が参加できるようにすることが必要である。	2	食育の推進は、より多くの市民の皆様に関心を持って、楽しく取り組めるように進めていきます。
172 食育キャラバン(横浜市が関わる各種イベントに参加し、横浜食材のアピールをしたり、市民の食育活動を取材、アピールを行う年間を通した広報活動)の実施。	2	食育プロモーションの取組の一つとして、参考にさせていただきます。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
173 食育キャラバンコンテスト(2年間の食育キャラバンのシンボルとして活躍してもらう「食育大使」を選出するためのコンテスト)の実施。	2	食育プロモーションの取組の一つとして、参考にさせていただきます。
174 地球温暖化対策をはじめとする環境問題がますます深刻化する中で、環境に配慮した食生活(買い物、調理、後片付け、ゴミ削減)の定着に向け、小中学校や一般の方を対象とした取組が必要である。	2	無駄な食べ残しや食品ロスを減らす意識の普及・啓発等を通して、環境に配慮した食生活を送る取組について検討してまいります。
175 昨年、JA横浜の食農マイスターに登録、食農検定3級も取得したが、一度もボランティア(食育)の依頼が来ない。食生活等改善推進員に加入していて、ヘルスメイトとしての活動は、年間を通してあるし、研修も充実しているが、農協ももっと積極的にマイスターにボランティア活動のあっせんをしてもいいのでは？せっかく知識を習得しても、私のような人が、まだ他にもいるのではないかな？	2	食育推進の担い手となる資格をお持ちの方々に活動していただく機会の確保について、検討してまいります。
176 学校給食については、農協等と話し合い、出来るだけ地産地消を心がけられるような献立、米を使った御飯、小松菜や大根等を使った料理、全地区同じものでなくても計画をたずらすことで地元でとれた農作物などが利用されるのではないだろうか。	3	学校給食での米飯を週3回提供しております。また、地産地消月間(11月)には、市内産農産物を給食メニューに採用するなどの取組を行っております。今後もこれらの取組がより一層充実するよう推進してまいります。
177 飲食店で地場野菜等を使うのもいいことだと思う。	3	市内飲食店のうち、市内産農畜産物を使用する飲食店を「よこはま地産地消サポート店」として登録し、市のウェブページで紹介しております。今後もこの取組がより一層充実するよう推進してまいります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
178 食品の安全偽装、食中毒等の情報を速やかな広報が必要であると思う。現状では、不十分不足です。	3	食の安全ヨコハマWEB (http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/syoku_anzen/) 等で、食の安全に関する情報を提供させていただいておりますが、今後も市民の皆様に速やかな情報提供をさせていただけるように取り組んでまいります。
179 最近、特に食育の大切さを痛感しており、今回この横浜市の推進計画(案)を拝見して大いに共感した。特に横浜市民の心身の健康の増進と豊かな人間形成は必須のことであり、横浜市民のさらなる文化的財産(無形の)の構築として、後世に伝えるべきものといえる。	6	ご感想として承ります。
180 食は大事である。食料を確保しないと、そもそもの食材がなくなるわけだし…。農業が大事。でも後継者が増えないのは残念なことだが、かくいう私もサラリーマンである。	6	食育についてのお考えとして承ります。
181 一家団らんでせめて、夕食でもできればと思うが。今は、家族の中でも、各人がそれぞれの時間があるようで、それもままならない。でも2か月に一回くらいは皆で食卓を囲めるようになればと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
182 何より大切な栄養は「親の愛情」でしょう。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
183 私自身、20代の頃、摂食障害と診断され、治療をしてきた。そんな事もあり、「食」の大切さ、怖さを体験している。小学生の息子には、私の体験を全て話し、「食」の大切さ、怖さ、食べられることのありがたさを考える事を、知る事をさせている。	6	食育についてのお考えとして承ります。
184 今は、バランスシートを使ったり、成長期の為、いろいろ苦勞・工夫しながら食生活を家族そろって楽しんでいる。心がけている事は、個食・孤食はさせない、スローフード、野菜・穀物(米・麦・豆)・魚貝海産物・牛乳を多めに!!です。	6	食育についてのお考えとして承ります。
185 乳幼児に接する仕事をしているので、日々食べる事の大切さを教える事の重要性を実感している。子ども達の母親世代はファッションやビジネスには長けているが、料理を気負いなく、当たり前の事としてできる人がとても少ないので、子どもたちの食べている物もCMや流行に左右され、野菜の量や安全性についての知識が不足している。かめない子もたくさんいる。	6	食育についてのお考えとして承ります。
186 本来食べる事は楽しい事のはずなので、あまり教育的おしつけ的にならないよう、楽しく食育を進めていきたい。	6	食育についてのお考えとして承ります。
187 我が家では特別事はしていないが、食事の時はテレビを消しているが、自然と話ができる。あと記憶に残る食事として誕生日やクリスマスなどイベントの料理には、力を入れている。私も母にしてもらった記憶が鮮明に残っているから今度は子供達に返していきたいと思っている。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
188 夕食を家族全員で食べる事が難しくなっていることが現実となっているが、朝食は簡単な物でも前日から用意をしていれば、家族で食べる事は可能かと思う。食事や睡眠を十分にとり、健康的な生活をしたいと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
189 私は女の子4人いるが小さい頃から食育を心がけていたが、今、親になり実践している。	6	食育についてのお考えとして承ります。
190 今回このような冊子をたまたま手にすることが出来ました。しかし、横浜に住んで40年近く市や区の行政にはいつも気にかけてきましたが、様々な取り組みもいつもどこか遠いように思います。内容を見て素晴らしいと思いました。	6	ご感想として承ります。
191 我々の世代はまだ家庭科が女子のみ履修という時代だったので、中々食育といわれてもピンとこないのが正直な悩みである。	6	ご感想として承ります。
192 「運動」「食」を通じて、健康を維持する重要性は痛感している。介護・医療費用の削減のためにも、大いに食育を推進して欲しい。	6	ご感想として承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
193 食育全般について、知らないからやらない、知ってもやらない、知ってもできない・やれない等、色々なことが考えられると思います。生活していく上で、家族・経済の問題も大きい。	6	食育についてのお考えとして承ります。
194 私たちの生活は、今後大幅に変化することはないと思われる。24時間営業の店がなくなるわけでもない。このような状況の中、食欲とどのように向き合っていくのか、メンタルの部分にもアプローチが必要である。食欲のコントロールの方法が実際あって、効果があるかどうか分からないが。	6	食育についてのお考えとして承ります。
195 食育は妻が保育士だったので知りました。おかげで子どもの小さいころから意識的に食事や料理や野菜の栽培に関心をもつようになってきました。知らなくても自然にやっていたかもしれませんが全国の水準をムラなく下地を作るには教育が必要かもしれません。	6	食育についてのお考えとして承ります。
196 日本食は、世界的にも健康食品として知られており、文化として拡大を続けている。その原点は醤油である。大豆、小麦、塩といった天然原料から醸造される調味料は、健康志向の強い欧米でも人気である。食育を通じて、醤油の良さをPRしたい。	6	食育についてのお考えとして承ります。
197 食育に関しては、食の欧米化や、食料自給率の問題など様々な事に関わっていますが、まずは食を知る事に従事すべきだと思います。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
198 私自身、食育という言葉を知ったのは20歳を越えてからであった。小学校の頃から知っていればもっと食に対する見方や考え方が違ったかな？という気がする。	6	食育についてのお考えとして承ります。
199 未来を担う子ども達にとって、食育は重要な事である。	6	食育についてのお考えとして承ります。
200 食事は人間をはじめ生命の維持には欠かせない行為である。それは単なる「食事」とどまらず、人格の形成、人間関係の構築等にも大きな影響を及ぼす。特に、子供にとっては、食事を通して学ぶことが多い。	6	食育についてのお考えとして承ります。
201 私の娘は私立小学校に通っていて給食ではなく弁当ですので、食育を学校に頼るということではできませんが、家庭での食事と学校での弁当を通して子供の人格形成に役立つように工夫をしたいと思っています。	6	食育についてのお考えとして承ります。
202 食事は愛情だと思います。「これはどこで作られた野菜なのか」「どのような流れで食卓に並ぶのか」「どのような思いがこめられた食事なのか」「健康によい食事とは」「食事の際のマナーとは」等々、コミュニケーションをしっかりと取りながら、食事の機会を有効に使った教育ができればと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
203 バランスを意識した食事を作ることに気を使っている。また決められた時間にきちんと食べるという生活習慣も大事にしている。	6	食育についてのお考えとして承ります。
204 食育、てなに？	6	ご感想として承ります。
205 パウダー状のダシやコンソメ、混ぜるだけで出来るソースが何から出来ているのか知らない人も多くいると思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
206 便利な家電が多くなっているのです、例えば炊飯器でないとお米が炊けない人も多いと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
207 一人暮らしであると、食事を作ろうと思っても一人分は作りにくく、量も多くなってしまい食べきれずもったいないので「食事を作る喜び、食べてもらう喜び」が味わえないと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
208 「食育」という言葉になじみがなく、すぐにイメージがわからない。	6	ご感想として承ります。
209 我が子の通っている学校は6年生になるとバイキング給食があり、自分でカロリー計算や栄養を考えて給食を摂るというものがある。	6	ご感想として承ります。
210 他にもお米の栽培を地域の方の田んぼで出来たり自然を学ぶことは出来ていると思う。	6	ご感想として承ります。
211 最近では世間では食育と改めて取り上げ、また宣伝効果も期待されてかよく使われているが、私は日本人の昔からの食、お米中心の食事に戻す事。これが本当の食育になると思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
212 よい試みだと思う。食事は大事で大切なものと言うことをみんなにわかってもらうためには必要である。	6	ご感想として承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
213 日ごろ、子どもたちを育てていて感じることは、「食育」と肩肘を張らなくても、子供達は自然と台所に入り込んで来て、私が夕飯を作っている姿に興味しんしんにみて勝手に食育している、と言う事。同居中の両親は仕事をもっているのに、なかなかうちで食事の用意をすることがありませんが、それでもたまに作ると子どもたちはじいじおばあちゃん料理をとておいしそうに食べている。	6	食育についてのお考えとして承ります。
214 昔は当たり前前に2世帯3世帯と同居していて、当たり前前に色々な人の手が加わった料理が食卓に並んでいたように思う。私も両親だけでなく父方母方オジおば、近所のおじさんおばさん等、色々な人のご飯を食べて育った。核家族化して、母以外の料理の味を知らない子供達のしてみたら、そんな体験は新鮮ではないかな？と感じる。	6	食育についてのお考えとして承ります。
215 食育とあまり前面に出すよりも「近所のおじいちゃんおばあちゃんとの交流」や「みんなの味をもちよう」といったちょっとパーティーみたいな要素を入れて、子供達に自然に色々な人の手が加わったものを味わわせてはどうか？と思います。	6	食育についてのお考えとして承ります。
216 ただ単に自分がわかっていないだけかもしれないが「食育」という言葉を聞いても正直あまりピンと来ない。「食」ということなら、食の安全とか地産地消ということは最近自身で意識するようになってきた。昔は、「〇〇の名産地は××」ということは知識としては持っていました。が受験のためという面も大きかった。	6	食育についてのお考えとして承ります。
217 私の職場は福祉施設で、利用者と一緒に食事をする場面がありますが、食材の産地は厨房職員にわかるようにしてもらっている。知的障害がある方の支援にあたっており、みなさん食事は非常に楽しみにしている。利用者と一緒に調理実習や野菜の栽培・収穫といった活動で食を意識する場面があるように思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
218 今後食育については、何を取り組んでいいのかわからない、というのが正直なところである。できることがあるのなら知りたいと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
219 食育はとても大事な養育だと思う。ほどよくバランスのとれた食事を豊かなコミュニケーションとあたたかい雰囲気の中で、共にする事が大きな意味を持つと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
220 横浜市行政としての「食育推進」に大いに期待する。特に、市民の健康と地域の産業(農業から食品製造業さらには飲食店・コンビニ、スーパーまで)を関連づけ、地域を活性化させることは確実に地域の発展につながるものと確信する。	6	食育についてのお考えとして承ります。
221 3人の子育てもそろそろ終わりとなる。大切に感じる事の一つに「食育」が挙げられる。大人になった時に最低でも5大栄養素が頭の中にあり、食事の度にそれらを摂るのが習慣になっているのが私の理想であり。医食同源とは良く言ったもので、食事に気を使っている母親の子どもは学校のお休みも少なかったように思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
222 よこはま指針、食育の推進、とても広い運動論なのでとても大変だろうと思う。まず我が家から食育について語りあいたいと思う。	6	ご感想として承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
223 PTAでも話し合える機会ができれば最高であると思う。	6	ご感想として承ります。
224 気がつかなかったことなど、無関心だったことなどとても勉強になった。ゆめが丘駅の“浜っこ”をよく利用しますが、地域の方の朝とり野菜など、新鮮でスーパーなどより安くとても助かる。竹の子等季節のものもたくさんあった。	6	ご感想として承ります。
225 最近イヤな事件が多い。我慢できない人間が増えたせいで、その原因は「自分勝手な食事」にあると思う。一昔前、子供は母親の料理を好きでも嫌いでも食べました。我慢と感謝が自然と身に着きました。今は、親が子供に「何食べたい？」と聞く。これは子供の好き嫌い(欲望)に任せる、最も子供を悪くする言葉です。好き勝手に食べ、欲望のままに生きなさいという躰です。だから子供から大人まで「何食べたっていい」「何やったっていい」と思っている。いじめや犯罪は益々増えます。親は誰でも子供を真綿に包んで育てたい。しかし一生真綿の中で育てることはできない。社会に出たら荒波に揉まれる。だから、その練習を小さい時からするのです。当たり前の和食、日本人を長寿世界一にしてくれた和食に努める。好き嫌いをしないように家族みんなで努力する。その工夫や葛藤や努力が親子の絆、家族の絆を強める。段々と好き嫌いがなくなり、我慢と感謝が身に付く。この我慢や感謝や克己心を身に着けることが人間教育の最大の目的だと思う。これが食卓で簡単にできる。ただし小学校までです。教育学者の森信三先生は「つ」の付く間に躰をせよと言われた。「九つ」までしか「つ」は付かない。例えば皆さんは家庭で、中高生に「克己心」を身に付けさせられますか。まず不可能でしょう。へたをすると殺されます。こんなに難しい人間教育が小学生までならできます。昭和40年頃まではどの家庭でもやっていました。ところが東京オリンピック以降、急に物が豊かになり、自由と勝手を取り違え、我慢や克己心を軽んじ、躰が古臭いとした自由のびのび思想とゆとり教育の蔓延で、日本人の心は成長不良に陥りました。宇宙の法則は陰と陽です。喜びも苦しみも心の栄養です。「心の再生」の一番の近道は「日本型食育」です。「知育・徳育・体育の前に食育あり」です。みんなで和食に努めましょう。いくら一家団らんが増えても、毎日ご馳走では健全な心と体は育ちません。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
226 親が子供に「何食べたい？」と聞くのを止めたほうがよい。親も何を食べさせれば良いかわからないからこのようなことを聞くのであると思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
227 保育園児と小学生の子どもがいる親の立場からすると、「食育」について考えることに対して、子どもの教育上、十分モチベーションはある。しかし、なにかきっかけがないと、モチベーションはあるが、結局なにもしなかったということになりかねない。	6	食育についてのお考えとして承ります。
228 (特にお米)地産地消等も書いてありましたが、共感できる。また、本計画の目的である、「食」を通して、市民の健康と豊かな人間性を育み、高めることを目指すと書いてあったが、すごく期待している。	6	ご感想として承ります。
229 今回のように、意見を募集していただけたのが良かった。今後も食育ボランティアに楽しく取り組んでいきたいと思う。	6	ご感想として承ります。
230 色々な案がでていますがどのようにとか、どうしてというような具体性がないように思う。時間のある人は栄養バランスの知識は豊富だが学んで欲しい人は皆忙しくコミュニケーションも食生活の乱れも気がついていない。色々な情報が飛び交う中、それらをそのまま信じる人もいる。私たちはもっともっとただしい知識を自身をもって話せるようにならない。家庭や地域でのコミュニケーションの不足は現代社会そのものの姿であり、社会及び、個人のライフスタイルが変わらない限り、とても難しい問題であると思う。ヘルスマイトとしてどこまで説得させられるだろうか。	6	ご感想として承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
231 健康は食べることから、安全で安心した食品、野菜、果物、調味料、その他、お口から入る物すべて3食は必ず食べる。朝・昼・夕、時間を守る、料理は手作りの習慣を身につける、運動もすること、ウォーキングなども大切である。	6	食育についてのお考えとして承ります。
232 横浜市食育推進計画(素案)のP36とP41・42から、「食育の推進」で、私が参加し協力できるのは、地産地消の推進である。計画の全体像から見て、「横浜みどりアップ計画(地産地消の推進)」に位置づけられ、21年度から横浜市は、全国に先駆けて「横浜みどり税」を導入し「横浜みどりアップ計画」を今進められている。何故「横浜みどりアップ計画」が食育の中心かと言うと、地元でとれた野菜を食べることは健康につながるし、それを学校給食にもとり入れる。学校の食育は、学校での農園を作り、子ども達が体験することで、体で学ぶ本当の食育である。食べ物の大切さとの農家とのコミュニケーション。地域から小学校・中学校から食育を通じての連帯感が生まれ、みどり豊かな横浜がみどりと農を通じて、本当の食育推進につながると私の子ども時代の体験から思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
233 小学3年生の娘、年中の娘を育てています。日々、毎日ごはんのときは楽しく食べようと思っていますが、おわんの持ち方やはしの持ち方を繰り返し言い、「わかってる！」と言われるのですが、親が言わないと…と思いがんばっています。	6	食育についてのお考えとして承ります。
234 おやつなどは、スナック菓子はなるべくさけて(友達を呼んだ時はOK)一緒に作ったりしています。最近は野菜をよく使い、かぼちゃ、いもなどをよく食べています。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
235 自分で作ったものは特別においしいようです。絵本や本などでも食べ物についての本を借りたり、おやつの作り方などの本もよく借ります。これからも自分なりに食育に取り組んでいこうと思います。	6	食育についてのお考えとして承ります。
236 家庭での生活、食生活が大切である。	6	食育についてのお考えとして承ります。
237 たくさんの食材を使うこと、とりわけ旬のものは大事にしたい。	6	食育についてのお考えとして承ります。
238 食後に自分の食器を下げることで、これは食べ残しがなくなる。	6	食育についてのお考えとして承ります。
239 私が勤務する小学校では、食教育全体計画の基、子どもの健全な育成のため、あらゆる機会とあらゆる場所を利用して、積極的に食育の推進に努めている。	6	ご感想として承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
240 子どもに教育するのは大切であるが、育てる大人に知識がないのが問題である。	6	食育についてのお考えとして承ります。
241 不況の今、質を軽視する傾向もある。いかに納得してもらうのか難しいところである。	6	食育についてのお考えとして承ります。
242 働く女性(母親)が増え、食事に時間をかけなくなったこと、又、コンビニ等でお金があればいつでも好きなものを買えるようになったことで食がくずれてしまったと感じます。	6	食育についてのお考えとして承ります。
243 私は農業を取り組む者として、既成の概念の枠にとわられない役割ができるように個においてもある枠において総合的に事がなせるような仕組みづくりを目指したい。	6	食育についてのお考えとして承ります・
244 欲望の一つは食欲、好きな物を好きな時に食べることに素晴らしい！健康は自分で考える、家族で話し合う。	6	食育についてのお考えとして承ります・

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
245 食べ物は無駄にしない。物を食べられることに感謝する心を育む必要がある。	6	食育についてのお考えとして承ります・
246 食育の基本理念を如何に身につけさせるかが必要である。	6	食育についてのお考えとして承ります・
247 何事も子どもの時からの教育が大切、感謝する心が必要である。	6	食育についてのお考えとして承ります・
248 バランスの良い食事の大切さを教えるが必要である。	6	食育についてのお考えとして承ります・
249 食育は理屈ではなく、感謝をする心から始まることすべて理解できる。	6	食育についてのお考えとして承ります・

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
250 伝統的な食文化についても、食育のなかに盛り込まれており、大変良い。マクガバン報告やチャイナ・プロジェクトを受けて、日本古来の(戦前の)食文化が世界中で最も健康的であると聞いた。	6	ご感想として承ります。
251 立派な計画が策定されているのは良いが、文字で伝えることはその理解を得るのに難しい。それぞれの現場で実体験からきっかけがつかめれば、理解度が深まるのでは？(インパクト)農業・漁業・林業・畜産など生産現場を体験し、自分が生きているということに、いかにいろいろな植物、動物、魚介類などおの犠牲が払われているか?「いただきます」から「いただきさせていただきます」へ自分の手元に届くまでいかにいろいろな人の手を経ているか。いろいろなことを考えるきっかけになれば、授業や家庭で体験を語らずにはいられなくなり、コミュニケーションへの進化すれば・・・	3	市民利用型農園等で市民の皆様の農体験の場を確保し、直売所の拡充や「はま菜ちゃん」の広報など、地産地消を一層推進するとともに、市場での交流事業の実施等により、農畜水産物に関心を持っていただきたいと考えています。
252 以前何回か小学校で親子の食育教室に(ヘルスメイトとして)参加し感じた事ですが、子どもの成長に食育の大切さをあまり感じていない親が多い事に驚いた。子どもたちの成長、将来のためにも若い親に食育を進める必要を痛感した。	6	食育についてのお考えとして承ります。
253 「ヘルスサポーター21」事業を中学生との協力で何度か実施した。中学生に食育の大切さ、それをベースにした心と身体の健康づくりをすることが重要である。	6	食育についてのお考えとして承ります。
254 最近では、朝食をとらない子どもや間食を主食とする親もいて、食生活が乱れてきている。横浜市で取り組まれている食育はすばらしいと思うと同時に一番の体の基本となる食事は大切なことである。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
255 自分の健康は自分の手で、又、食品添加物も増えてきている現代において、がんも多くなり、できるだけ自然の昔ながらの和食が一番よいそうである。これからも体に気をつけて、横浜市民が元気で明るい生活ができる事を希望する。	6	食育についてのお考えとして承ります。
256 食は健康に生きるために必要であると同時に、精神活動や、脳を育むということにも非常に深く関わるということが、科学的な事実としてわかっている	6	食育についてのお考えとして承ります。
257 保護者の方々が忙しく、家庭で十分に豊かな食生活や食習慣を実現しにくい現状において、「調理をする際には、食材など様々な選択を子ども自身が行える判断力を身につけること」や「子どもがお腹を空かせた時に、簡単な調理を1人でできる最低限の調理技術を身につけること」が食の自立であり、食育の目的であるといえる。	6	食育についてのお考えとして承ります。
258 子どもに自分で調理を試してみたいと思わせるためには、自分で作った料理が「美味しい」ということを認識できる感性が必要であると考えます。食に興味をもつきっかけとして調理は最適であり、調理を通じて子どもたちが調理の楽しさを実感し、親子のコミュニケーションを深め、食の知識や大切さ、料理技術を身につけることにより、子どもたちの好奇心や創造力、五感を磨き、心身の健全な育成につながる。	6	食育についてのお考えとして承ります。
259 ホームヘルパーとして食事の介助を行っているが、成人病により市から支援を受けている方のうち、食に関して無知であったために病気になった方が多いということを知った。	6	食育についてのお考えとして承ります。

ご意見の概要 ※1	反映 ※2	横浜市の対応・考え方
260 日本食料自給率は、41%というのは恐ろしい。食料を外国に依存していれば、他の国(輸入国)に問題が起こった場合、私たちの生命がおびやかされる。	6	食育についてのお考えとして承ります。
261 食材や産地について、食品などをチェックしているが、家族の事を考えると、孫も同居しているので不安はあるが、野菜中心で新鮮なものを利用したいと思う。	6	食育についてのお考えとして承ります。
262 食生活には、信念を持って暮らしている。自給自足に心がけ(農業をしている)、料理は手作りでもったいない精神で取り組んでいる。今地域の小学校で行事食の普及に取り組み、6年続いている。昨年より広く、区内の小学校・地区センター・子ども会等、幅広く活動中で他の区からも区老連を通し問い合わせもある。夢のような話かもわからないが、希望される区にも普及できたらと今は思っている。依頼があれば、所々料理講習会に講師として行く事もある。健康でいつまでも社会参加が出来たらと願っている。	6	食育についてのお考えとして承ります。
263 食育ができるのは、幼・保育園児～小・中学生に対して(あるいは親に対して)消費者教育と合わせて、学校給食も含めて行われなければ実効性はない。	6	食育についてのお考えとして承ります。